

に最初に作った22年末現在の会員名簿がある。ザラ紙にガリ版、B6横刷りの粗末なもの。我が家で亡父に手伝って貰って作ったのがこの間のように思われるのは、そんな年になった所為かもしれない。昭和60年(1985年)、広島大学を定年退職後10年ほど女子短大に勤めたが今は閑職(非常勤講師)。好きな貝類研究と日本貝類学会副会長、それに日本学術会議の委員やら環境庁委嘱の仕事やらで結構退屈もせず至極元気に過ごしている。

(いなば あきひこ)

但馬生物学会の思い出

山本 茂信

豊岡中学校の山本茂信は、同僚の細田一夫氏と、県立豊岡高等女学校の土橋忠重氏や、県立八鹿農蚕学校の小西知巳氏と、清水正夫氏他5名の生物科教員と豊中達徳会館にて、学会発足の相談と研究会を行い、鳥取高農・廣江勇博士から『カビについて』の講義を聴き、但馬生物学会を設立し、会則決定、記念撮影をした。この学会設立は、昭和22年(1947年)1月27日であった。

ついで、同年3月2日、八鹿農蚕において、第2回研究会を開き、京大理学部の藤井祐一博士の「遺伝と進化の問題」を論じ、県下一円に呼び掛け学会創立の議起り、山本が連絡員と決定した。山本は、明石女子商業の紅谷進二先生と協議することになった。同年5月1日、香住水産学校で第3回研究会を開き、国立水産指導所香住分場長・野口栄三郎氏の「イルカの生態」につき講演を聴き、兵庫県生物学会の発足の促進について話し合った。同年5月17日、明石女子商業学校において、兵庫県生物学会準備委員会が開催され、総会の準備、並びに規約などについて話し合った。同年5月21日、兵庫県生物学会準備委員会は、朝日中学校において開催された。同年6月6日、明石小学校で総会を行い、学会の規約を決定した。また、兵庫県立農科大学教授・森為三博士を推戴、役員を任命し、同年の行事予定の協議を行った。また、会員の「科学振興について」の講演があり、盛会裡に創立総会が実施された。誠にめでたいことであった。以来、日本の生物学会の中核として活躍を続けている。

但馬生物学会は、会員数が昭和27年8月10日付けの会員名簿によれば総員9名であったが、生徒、児童とともに、但馬山岳、河川並びに但馬海岸で採集、実験、研究会などを実施し、八鹿町妙見山には「日光院資料館」を作り、昆虫標本、植物標本などを集めている。コウノトリの研究もはじめ、但馬の生物誌を発刊するようにした。

昭和20年代に、東大、東京高師、京大、鳥取農高、九大農学部、広島高師、広島文理科大などの諸先生方に変えて指導いただいた。特に九大・江崎悌三先生、東大・

本田正次先生、韓国ソウルの京城大学予科の森為三先生、竹中要先生に終戦前後に大変ご指導いただいたことをここに重ねて深謝する。以上の諸先生の人脈により、すべてが成功裡に運び感謝、感激している次第である。

(平成7年11月23日勤労感謝の日に記す) 敬称略。

(やまもと しげのぶ)

栄光!!『兵庫生物』50周年

山本 茂信

広島原爆の朝、広島県向原高女(現向原高校)より豊中(現豊岡高校)に赴任し、「兵庫県生物学会」を起すことになった。

浜坂から豊岡まで通勤し、昭和43年3月まで豊岡高校、49年3月まで村岡高校で生物学を担当し、「兵庫県生物学会」の方々と共に生物学の数々の発展に尽力した。(但馬妙見山日光院に資料館も設置した。)

最初「但馬生物学会(但馬支部となる)」の方と鳥取、京都、篠山、神戸の大学の方々と研修を始め、次いで明石市立女子商業学校長紅谷進二先生などと計り、兵庫県立農科大学教授森為三先生を会長に願い、昭和22年から「兵庫県生物学会」ができ、海、山、川の自然に恵まれた私たちは十分な研修を実施でき有り難いことであった。

見事な兵庫県生物学会編集『兵庫生物』第1号が昭和23年3月発刊され現在に至っている。各地において採集会や臨海実習など実施され、雑誌に業績が発表されている。

昭和38年7月、山陰海岸国立公園が指定され、昭和46年、海中公園が指定、豊岡に「コウノトリ」の繁殖場ができ、現在は「世界自然遺産」の候補にするなどすばらしい発展を遂げている。

日本生物教育学会の総会においても東京・京都・神戸と各地で行われ、「兵庫県生物学会」と密接に連絡をとりながら進められた。明石、神戸、姫路などに出張し、生物学会の方々と共に協議して生物学会の発展に参加できたことを有り難く思っている。

現在の学会長平畑政幸先生とは昭和44年8月扇ノ山野外観察を実施し、温泉町畑ヶ平高原のブナ林の中を歩き当時の三浦佳文会長はじめ大勢の方々の顔が浮かんでくる。

学会は昭和46年『兵庫県植物目録』を出版し、業績を立派に残している。現在ふりかえて数々の思い出が浮かびなつかしい極みである。

兵庫県生物学会の前に兵庫県博物館が昭和6年1月「会誌」を創刊し、兵庫県中等教育博物館が昭和13年6月「兵庫県中等教育博物館雑誌」を創刊している。当時は山鳥吉五郎先生が牧野富太郎先生と県下の山や但馬

海岸で活躍されていることを付記しておく。

重ねて「兵庫県生物学会」の先人の方々や現在活躍されている諸先生に感謝している。将来益々各位のご努力研修を期待し、充実した生物学教育が実施されることを希望し、心より発展を願う。

祝!!『兵庫県生物学会』萬歳! 萬萬歳!!

(平成7年10月1日) (やまもと しげのぶ)

兵庫県生物学会の思い出

室井 緯

戦前には生物と鉱物とが分かれず博物として取り扱われていた。戦前は阿部良平会長の『博物学会』と山鳥吉五郎会長の『中学博物学会』とがあって、博物学会は小、中、大学の教師や一般同好者の集まりであったが、『中学博物学会』には主として中学の先生方を会員とし、生物や鉱物の教材研究が主であった。そして兵庫県下の生物を対象としていた。

ともに第二次世界大戦によって消息も長らく途絶えてしまっていたが、終戦後の昭和22年5月17日に紅谷進二氏が発起人となって、新しい生物学会が明石市立明石女子商業学校で誕生した。

集まったものが50余名。会には会長や規約が必要と、集まったものの中から山本茂信(豊岡中学)、稲葉明彦(姫路中学)、古林一実(朝日中学)、室井 緯(神戸二中)が指名されて起案した。まず、会長に森為三博士を推し、会誌は『兵庫生物』として題字は私の知人の文学博士三沢諄次郎先生に依頼し揮毫していただいた。今日もそれが続いている。

あわせて『兵庫生物』創刊号B5判、32ページを出すことになり、次の各位が論文をお寄せ下さった。創刊号の投稿の方々を紹介する。

森 為三 創刊の辞

本田 正次 兵庫県生物学会の誕生を祝う

藤井 祐一 ショウジョウバエの唾腺染色体とその検鏡方法

室井 緯 女竹属の分類学的研究

紅谷 進二 小学校科学教育振興運動の必要性

古川 博二 ワレカラ考

神崎 宰一 近世における生命感の瞥見(上)

川崎 正 六甲に産する暖地性及び寒地性植物

鯉田 義雄 本校農場に発生せる病害調査

秋山 岩雄 粉種づけの学習

続いて昭和22年度、一年間の学会記事抄ををお目にかかけよう。

昭和22年1月27日、但馬支部(以後、支部を略す)豊岡

中学において生物科教員、相談会を行う。鳥取農専、広江勇博士から「カビについて」の講演を聴く。

3月2日、但馬、県立八鹿農蚕学校に第2回総会を開く。京大、藤井博士の「遺伝と進化の問題」。

5月1日、但馬、香住水産学校に第3回総会を開き、国立水産指導所野口栄三郎氏の「イルカの生態」につき講演あり。

5月17日、本部、明石女子商校において、生物学会準備委員会開催。

5月21日、本部、規約委員会を朝日中学校において行う。稲葉、古林、室井出席。

6月6日、本部、明石小学校で総会を行い、規約決定。森為三氏を会長に推薦、役員任命、本年度行事予定の協議及び会長の「科学振興について」の講演。

6月12日、姫路、国立農事試験場において結成会を行い、引き続き大谷技官の「稲の生育について」の講演。

6月22日、神戸、六甲山にて発会式を兼ね、動植物採集会を行う。

7月1日、本部、室井は本夏の植物採集会の指導者として、本田東大教授の指導懇請のため上京。

7月17日、本部、明石女子商業にて8月の行事決定、会誌の件、各支部結成状況につき理事会を開く。

7月20日、竜野、発会式を行い、役員、規約決定、懇談会を行う。

7月22日、神戸、六甲山に動植物採集会を開く。

7月26日、神戸、神有線古寺にて植物採集会を行う。

8月4日、神戸、高砂において稲葉氏指導のもとに貝類採集会。

8月7~9日、竜野、奥谷植物採集会。営林署の好意により自動車宿舎等一切お世話になる。永らく不明であったクラガリシダ、フジシダ、ナツアサドリをつきとめることができ、ハコネサンショウウオを多数とる。

8月12~13日、本部、香住において、本田教授指導のもとに但馬三川山の植物採集会を催す。

8月16~22日、本部、大阪女子専門学校、木南正叔博士指導のもとに新中教科書「何をどれだけ食べたらいいか」を中心に講習会。

8月27日、神戸、阪神、神有六甲登山口から山頂の植物採集会。

8月29日、竜野、室井の参加を得て、鶏籠山で植物採集会を行う。

8月30日、神戸、摩耶山植物採集会を催す。

9月10日、阪神、灘中にて発会式、阪大講師藤田武夫博士「寄生虫について」。

9月20日、明石、大久保川西機械工場にて結成会、高周波応用実演、電気メスなど見学。

9月21日、竜野、総会を行う。